

新時代のモビリティIoTを創造する



2016.3.4

Global Mobility Service株式会社
代表取締役社長兼CEO
中島 徳至



誰もがクルマを
利用できる社会



低炭素化社会の
実現



安全・安心の
クルマ社会



社会がクルマを
利活用できる仕組み

IoTに必要なこと



必然性



持続
可能性

2つの要素がないと、IoTは成立しない

IoTプラットフォームについて 緑色が当社の領域



M2MからIoTへ

求められるIoTの正しい“前例”

M2M

閉じた範囲でモノとモノが
接続する

ex.

- ・住宅のエネルギー管理(HEMS)
- ・工場の生産性向上(FA)
- ・ベンディングマシーン在庫管理

IoT

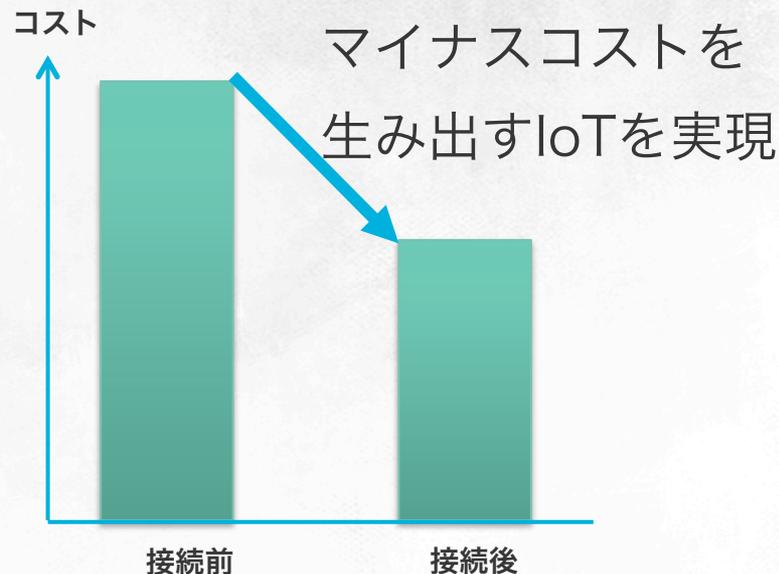
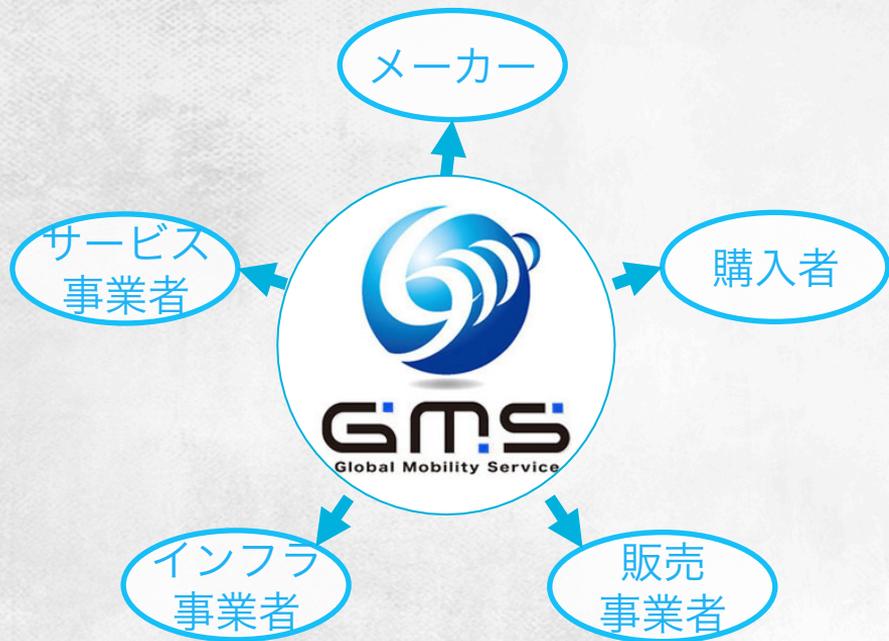
業界の垣根を越え、ヒト(企業)・
モノ・カネ・情報等が有機的に連携する

ex.

前例のない取り組み

GMSが提供するIoTサービスとは

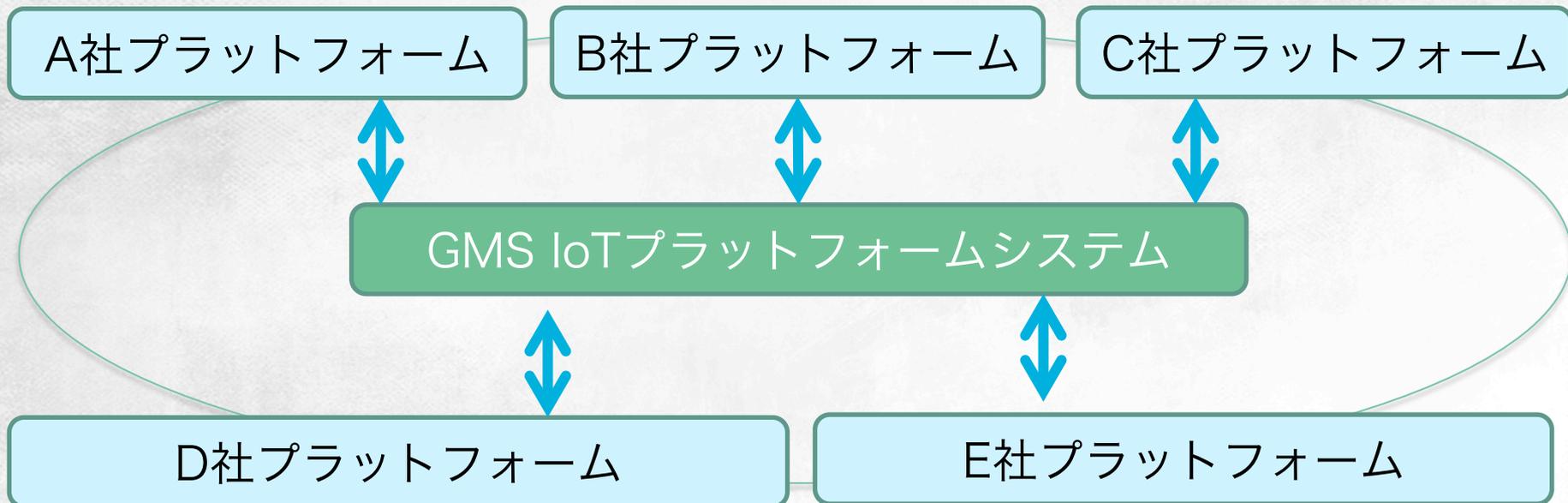
社会が必要とする“必然性”を生み出す



GMSが存在しなければ“トビラが開かない”にフォーカス

IoTプラットフォーム間の連携

プラットフォームは「一人勝ち」の時代ではない
今後の標準化を見据えた、現在の標準モデルを構築



連携の拡張性こそがIoT時代のプラットフォームには求められる

適切な収集データについて

“利用目的”は何か

何に使うか

技術研究開発

- ex.) ・ 車両開発
- ・ 運転挙動調査研究



必要な情報

- ex.) ・ 走行距離50Km
 - ・ 最高時速60km
- 1kの誤差も許されない

車両向けIoTサービス

- ex.) ・ 車両管理、監視
- ・ テレマティクス



- ex.) ・ 走行距離49.7km
- ・ 最高速度60.5km

逆では成立しない

“大は小を兼ねる”発想は落とし穴

IoTの誤解

“正確な情報を精緻に収集”は正しいのか？

○OBDポート活用の場合



- 車の速度
 - アクセル開度
 - エンジン燃焼
- etc.

大量の
情報を
通信

クラウド
に蓄積

ユーザーへ

- 速度情報
- 急アクセル情報
等

通信量の肥大化、不要なデータの蓄積が発生

○最適なIoTデバイスの場合



- GPS情報
- 加速度

コア情報を通信

クラウド
で解析

ユーザーへ

- 速度情報
- 急アクセル情報
等

最低限の通信量、必要十分なデータ蓄積

GMSの特徴

サービスの提供に必要な全てのレイヤーを構築

IoTプラットフォーム

IoTデバイス

市場開発

GMSの強み -IoTプラットフォーム-

弊社エンジニアの出身企業(抜粋)

SONY

HITACHI

OKI

NEC

FUJITSU

docomo

orange™

豊富なアプリケーションシステム接続

独自開発のGMSプラットフォームシステム

あらゆるレベルのデバイスが数十万台乗り入れ可能

コスト競争力 決済機能 外部乗り入れ 拡張性

GMSの強み

-自社開発IoTデバイス-

あらゆるモビリティを

後付けでIoT化し遠隔制御



MCCS

遠隔制御



MCCS
mini

24hセンシング

2つの視点で実現する社会



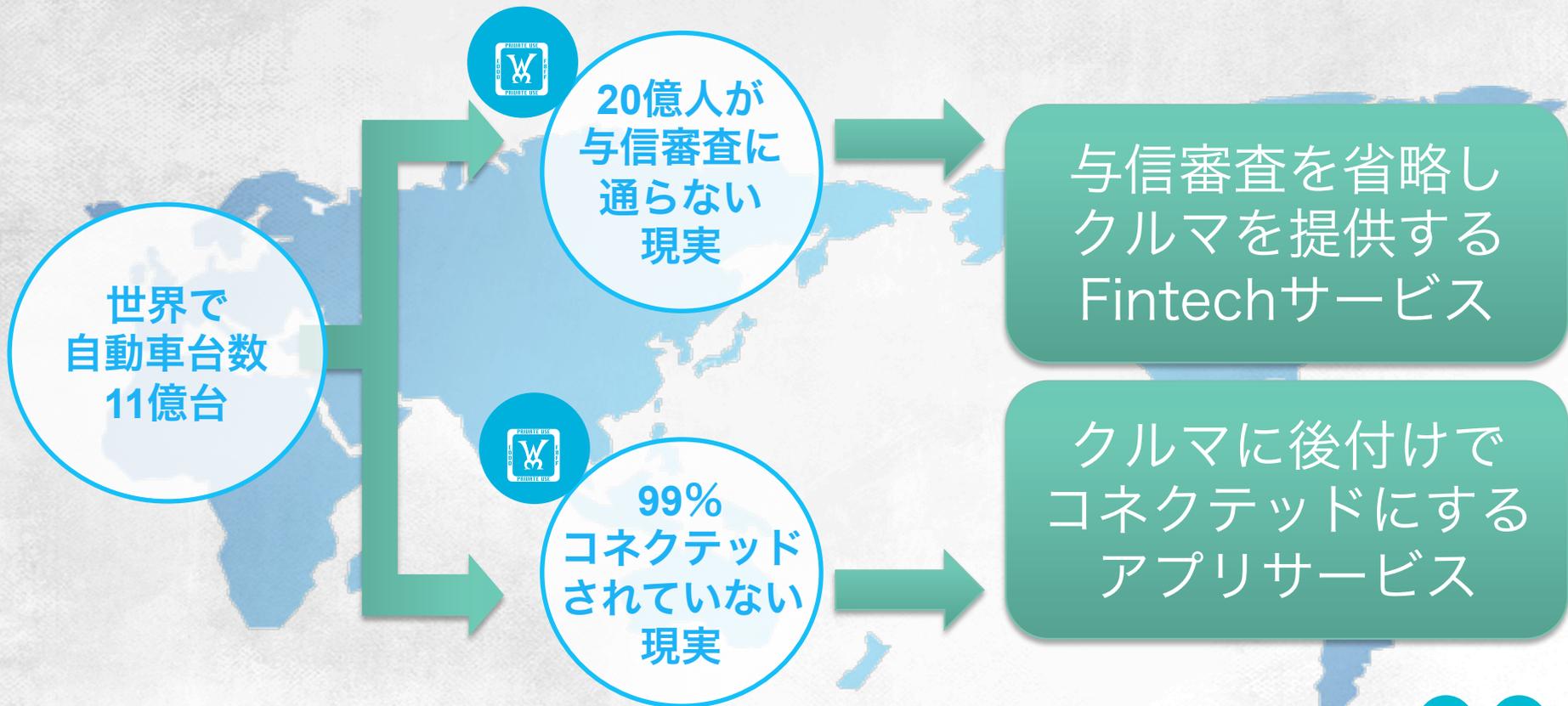
社会視点で自動車を利用する

理想的なモビリティIoTの社会



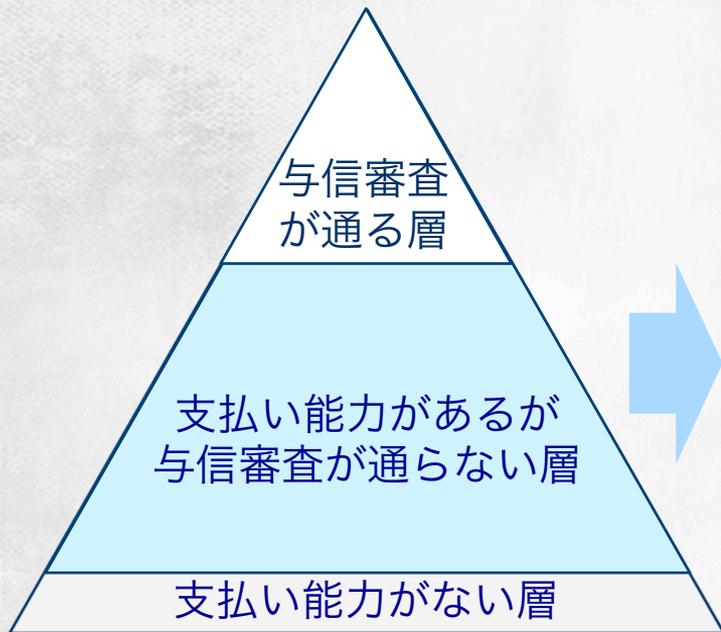
自動車メーカー主導で利用する

GMSのサービスとは



一億総活躍社会の実現に向けて

世界に20億人存在する、与信審査が通過しないため
クルマを買いたくても買えないという層に、新たなファイナンス機会を創出



ファイナンスを求める層

ファイナンス対象車両の資産保全さえできれば、
サービスを提供することが可能な未開拓のマーケット

- ・新たに車を得て仕事を始めたい専業主婦
- ・車を用いた事業を起業したい意欲が高い人
- ・学校を卒業し就職して間もない若者 etc.

国民 ・車を手に入れて生活を豊かにしたい

企業 ・車の販売量を拡大したい

金融 ・利回りの確保・安全な投融資を行いたい

政府 ・国内経済を活性化したい

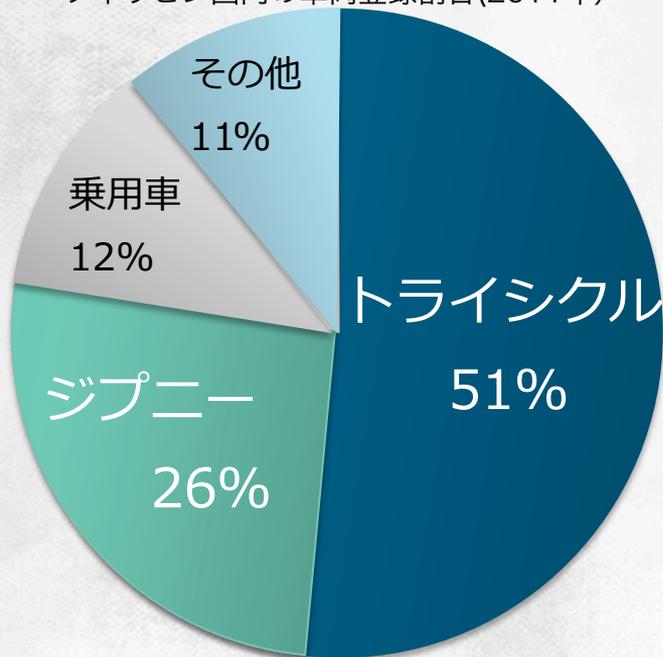
クルマを手にして生活を豊かにしたい人々を
社会として支えることが必要

GMS
サービスが
解決する

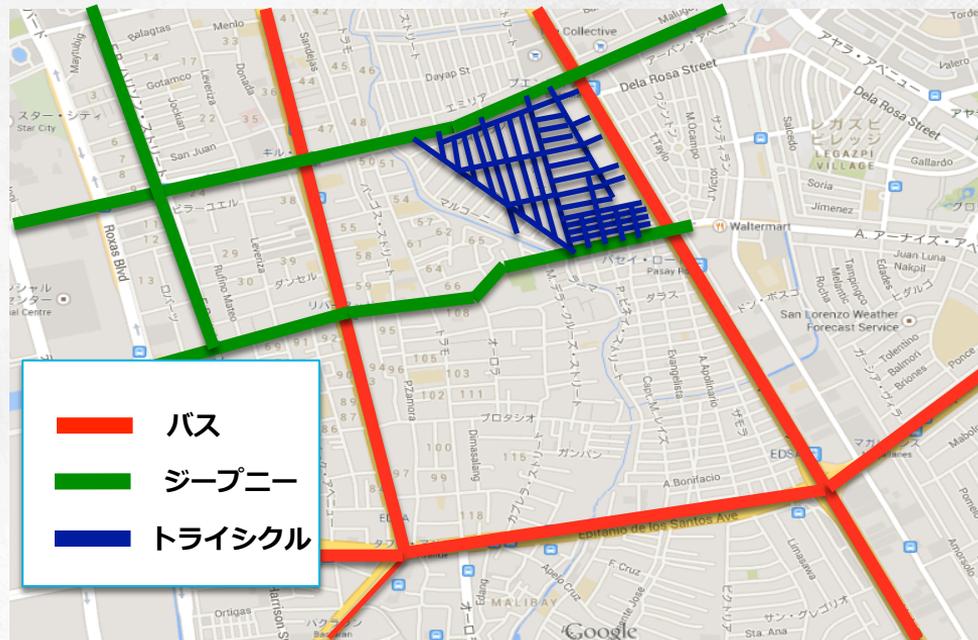
フィリピンの登録車両割合と特徴

最大の車両市場（トライシクル）

フィリピン国内の車両登録割合(2011年)



車両毎で分担された分散型交通システムが確立



GMSの強み -市場開発-

フィリピン



インドネシア



ベトナム



タイ



インド



フィリピンを
代表する二大都市



マカティ市 ケソン市

利用者

サービス
インフラ

現地最大
配電企業



現地最大
料金回収企業



現地最大
通信キャリア



フィテック

サプライ



車両メーカー

サービス
サポート

情報 **FUJITSU**

金融・リース・ファイナンス

保険会社

与信審査を省略した車両提供サービス

どなたでも車両を利用できる仕組み

GMSプラットフォームシステム(フィンテック)

遠隔制御 ↓ ↑ 車両情報送信



日本



ファイナンス利用のお客様



フィリピン



運行状況を全て可視化



42	STOD 01	063TRCYMKSTO01001	Bike	2016-02-19 07:27:10	ON				
43	STOD 02	063TRCYMKSTO02001	Bike	2016-02-19 05:29:47	ON				
44	TAR 01	063TRCYMKTAR01001	Bike	2016-02-13 12:54:21	ON				
45	TAR 02	063TRCYMKTAR02001	Bike	2016-02-14 21:45:47	ON				
46	TAR 03	063TRCYMKTAR03001	Bike	2016-02-11 13:06:55	ON				
47	TLS 04	063TRCYMKTLS04001	Bike	2016-02-19 07:27:28	ON				
48	UPI 06	063TRCYMKUPI06001	Bike	2016-02-19 07:20:33	ON				
49	UPI 07	063TRCYMKUPI07001	Bike	2016-02-19 05:56:08	ON				
50	XPCR 01	063TRCYMKXPCR01001	Bike	2016-02-19 03:26:53	ON				
51	XPCR 02	063TRCYMKXPCR02001	Bike	2016-02-19 06:34:20	ON				
52	XPCR 03	063TRCYMKXPCR03001	Bike	2016-02-19 07:27:24	ON				
53	XPCR 04	063TRCYMKXPCR04001	Bike	2016-02-19 07:06:59	ON				
54	XPCR 05	063TRCYMKXPCR05001	Bike	2016-02-19 07:27:01	ON				

MANAGER

REPORT

BILLING

TRACKING

PLAYBACK

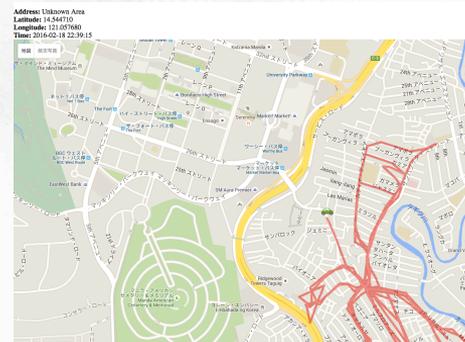
Date/Time 2016/02/18 08:34 > 2016/02/19 06:34

Start Address Xyrix, Manila, Metro Manila, Philippines

End Address Blueberry, Manila, Metro Manila, Philippines

Message

Global Mobility Service
MCCS CONTROL MANAGER
Ver.1.01



このトラックレコードこそが、BOP層の信用

モビリティをコネクタ化するサービス



各業界をつなぐプラットフォーム

プラットフォームが業界の磁石に



想定を超えた価値創造を可能にする

会社概要

日本

商号 Global Mobility Service 株式会社
本社 東京都中央区銀座8-15-2 ACN銀座ビル8階
設立 2013年11月25日
資本金 410,610,000円（資本準備金含む）

フィリピン現地法人

商号 Global Mobility Service Philippines, Inc.
本社 フィリピン共和国マカティ市サルセドビレッジ
設立 2015年5月6日
資本金 200,000ドル（2015年5月末現在）
株主 Global Mobility Service(株)100%

事業内容

- モビリティ向けIoTのプラットフォームサービスの提供
- クラウド上に蓄積したビックデータの二次活用サービス



株主

設立株主

小宮山 宏
Hiroshi Komiyama

元東京大学総長 三菱総合研究所理事長

松島 克守
Katumori Matushima

元PWC常務取締役 ビジネスモデル学会会長

栗原 省三
Shozo Kurihara

元日産自動車VP兼グローバルCIO 情報シ本部長

福武 總一郎
Soichiro Fukutake

株式会社ベネッセホールディングス最高顧問

中島 徳至
Tokushi Nakashima

代表取締役社長

主要株主

SBIインベストメント

あるべき姿の**実現**に向けて

“車ありきの社会” から “社会ありきの車”へ



経営理念

モビリティサービスの提供を通じ 多くの人を幸せにする

- ・ 国際社会への貢献
- ・ ステークホルダーからの信頼
- ・ 社員の成長

ご静聴ありがとうございました。



弊社では現在、資本業務提携パートナーを募集しております



Global Mobility Service株式会社

モビリティIoTの新時代に向けて



GMS
Global Mobility Service